

はだか麦 ‘ハルヒメボシ’ は 一発肥料+追肥で連年安定多収

農林水産研究所

はだか麦の一発肥料体系では、暖冬年などに肥料切れし葉色が薄くなることがあります。1～2月に追肥を1回（窒素3kg/10a）施用することで、葉色が回復し、穂数や収量が増加します。

耕種概要

播種：2020/11/16

基肥：ユートップ10号
(18-8-10)

N10…窒素10kg/10a

N13…窒素13kg/10a

追肥…NK化成(14-2-16)
窒素3kg/10a施用

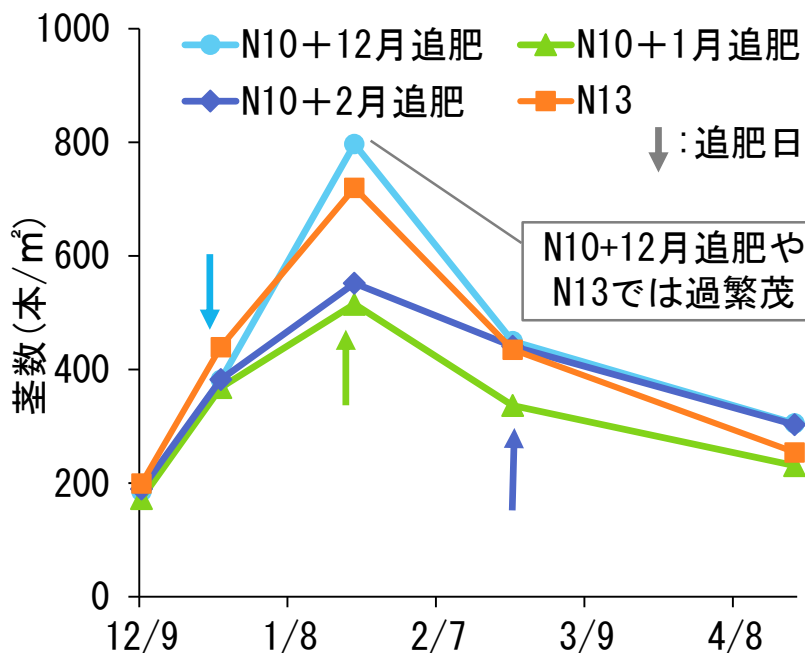


図 一発肥料+追肥体系の茎数の推移

表 一発肥料+追肥体系の生育・収量

試験区	穂数 (本/m²)	千粒重 (g)	収量 (kg/a)	屑麦率 (%)
N10+12月追肥	273	33.4	38.0	6.2
N10+1月追肥	308	34.0	41.4	6.9
N10+2月追肥	314	33.6	44.1	10.1
N13	250	33.7	33.9	6.4

注) 千粒重と子実重は2.1mmのゲージで篩選後、水分13%で補正。

- 一発肥料の肥料切れ対策としては、基肥を多く施用するよりも1～2月に1回追肥を施用する方が多収!
- 2月追肥は屑麦率が高くなりやすいので、施用遅れには注意!